

(公財) コープともしびボランティア振興財団

2022 年度事業報告ならびに決算見通し

【 2022 年度事業報告 】

1. コロナ禍においても活動を継続している団体を支援すべく、助成総額を前年度の約 2 倍に増額し、184 団体に対して総額 1,719 万円のボランティア活動助成を行いました。助成団体に向けてのアンケート結果から 8 割以上の助成団体が活動を継続する上で欠かせない費用の捻出や運営資金の調達に不安や悩みを抱えていました。これについては、2023 年度のボランティア活動助成の中で、助成の対象となる費目をさらに拡大し、引き続き支援を行うこととしました。
2. 社会的課題解決にチャレンジする団体を賛同企業とともに応援する「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」は、21 社とコープこうべから寄付を得て、ポストコロナを見据え、「新たな挑戦を通じて共生社会の実現を目指す事業」を追加し、17 団体に対し、総額 1,000 万円の助成を行いました。
3. 若い世代のボランティア人材の養成を目指して「高校生のボランティア顕彰」を実施し、4 回目となる 2022 年度は選考の結果、コロナの影響を受けつつも、今できることを前向きに考え、活動を行っていた 14 校を顕彰しました。

I. まちづくりの一翼を担う中間組織として、地域課題の解決に取り組む団体や人、ネットワークを支援します

1. ボランティア活動助成

(1) 22 年度助成の分野別実績

	分野	対象者	件数	助成額(円)	助成構成比(%)
①	福祉	高齢者	43	2,462,000	14.3
		障がい者	26	1,325,000	7.7
		青少年	1	160,000	1.0
		子ども(親子)	9	960,000	5.6
		地域住民	20	1,397,000	8.1
		施設・病院	1	15,000	0.0
		その他	7	847,000	4.9
		合計	107	7,166,000	41.7
②	まちづくり		4	812,000	4.7
③	防災・減災		4	562,000	3.3
④	人権		1	270,000	1.6
⑤	多文化共生・多世代交流		10	1,600,000	9.3
⑥	子ども育成		37	4,038,000	23.5
⑦	食と農		1	300,000	1.7
⑧	環境		16	1,577,000	9.2
⑨	その他		4	866,000	5.0
合計			184	17,191,000	100.0

(2) 「市民活動交流会」を3年ぶりに全団体参加で開催

2021年度は、任意での参加としたため、31団体のみでしたが、2022年度は、参加を必須とし、東西2会場に分けて5月に全団体で開催しました。事前アンケートの結果にもとづき、実行委員が中心となって企画し、テーマを決めて交流しました。両会場とも積極的に情報を得ようとする団体の熱気に包まれました。

交流テーマ

- ・東会場 コロナ禍の活動での中での困り事とその解決方法
市民活動を続けていく中での喜び
- ・西会場 「つながる」…若者とのつながり、SNSの活用、団体間の連携

(3) 2023年度助成に向けて

助成団体に向けてのアンケート結果から安心して活動を再開・継続するためには資金面での支援を強く望む声が多く寄せられたことをきっかけにボランティア活動助成の募集案内・募集要項の変更を運営委員会に諮りながら、継続して進めてきました。活動のレベルアップを目指して講師料・学習費を充実させ、要望があるにも関わらず、これまで助成の対象外であったレンタル料なども2023年度は、対象としています。また、人件費の助成についての要望は高かったものの、ボランティア活動助成の考え方の根源に関わるため、見送りとしましたが、外部の力を借りることで活動が発展することを期待して、外注費を助成の対象としました。

また、特に継続申請の団体に向けては、経年の活動計画ではなく、当年度の活動計画に対して助成の採否を決定する旨を説明会で強調したところ、申請書の記載量が大きく増え、活動のマンネリ化を防ぐことにもつながりました。

2. 社会的課題解決にチャレンジする団体への助成

(1) 第6回「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト助成」

(上限100万/団体、助成総額1,000万円)

社会的課題を新しい手法で解決しようとする意欲あふれる市民団体を賛同企業と力を合わせて応援しようと、2016年度に「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」を立ち上げ、2021年度からコープこうべが加わりました。この助成では、NPOなど法人格のある団体も応募可能とし、対象団体の幅をひろげています。

第6回目となる今年度は社会的課題を解決するために活動している団体やポストコロナを見据え、新たな挑戦を通じて、年齢・性別・国籍・障がいの有無等にかかわらず、全ての人々が安心してくらする共生社会の実現を目指す活動をする団体を新たに対象としました。結果、41団体から応募があり(2021年度は34団体が応募)、書類選考を通過した21団体が7月7日の賛同企業の代表と専門委員による最終選考会に進み、下記17団体に合計1,000万の助成を決定しました。

【地域の課題解決事業】(9 団体 331.5 万円)

団体名/助成金額/プロジェクト名	プロジェクト内容
<p><u>一般社団法人 enGrab (えんぐらぶ)</u> (40 万円) 中高生のための居場所「アマたまカフェ」</p>	<p>ひきこもりや不登校などの生きづらさを抱える中高生を対象に家庭や学校以外で安全で安心して過ごせ、気軽に立ち寄れる居場所を開催しました。やりたいことを応援し、地域や人とのつながりの場を提供することで、自己肯定感を育み、未来に希望を持って生きていくことができるよう今後も伴走していきます。</p>
<p><u>特定非営利活動法人クローバー</u> (42.5 万円) 家族のように安心できる居場所</p>	<p>月に1回、子ども食堂を開催し、学習支援や季節に応じたイベントも一緒に実施しました。今後は参加者も手伝うことで、皆で支え合い、1つの大きな家族のように笑顔で安心できる居場所を目指していきます。</p>
<p><u>特定非営利活動法人国際エンゼル協会</u> (14 万円) あおぞら食堂「エンゼル」(子ども食堂)</p>	<p>月に1回、敷地内の駐車場を活用して青空の下で、子ども食堂を開催しました。地域の子どもの孤食問題の解決や大人とつながる場づくりが目的です。今後はさらに内容を充実させ、より一層地域に根付いた活動をしていきます。</p>
<p><u>三田を知る会</u> (20 万円) 障がい者等の親亡き後の ラウンドテーブル事業</p>	<p>介護者である親が亡くなった後も、身体的、精神的、知的などの障がいを持っている子どもが十分な介護を受け続け、何不自由なく生活を送ることができるよう、当事どうしで話し合いながら探っていきました。結果、親亡き後に必要な要望の明確化、当事者どうしの交流とネットワーク構築ができました。</p>
<p><u>ソーシャルガーデナーズ ちょこ</u> (50 万円) 認知症の人とともに住みやすい地域になる園芸療法講座</p>	<p>園芸療法を通じて、認知症の進行を緩やかにするとともに、家族や地域の人に認知症への理解を深める視点や方法を伝えました。今後も、植物の癒しを用いた園芸活動を地域に広め、誰もがいきいきと生活できる地域の実現に取り組んでいきます。</p>
<p><u>特定営利活動法人</u> <u>日本災害救援ボランティアネットワーク</u> (50 万円) 防災アニメを活用した親子防災講座を開催</p>	<p>オリジナルの幼児向け防災アニメ「ももたろう」を用いて親子防災講座を開催しました。講座を通して、災害時の対応だけでなく、地域の中での普段のコミュニケーションの大切さを伝えました。今後も、災害が発生しても、誰ひとり取り残されない地域づくりを目指します。</p>

<p>認定 NPO 法人 東灘助け合いネットワーク (35 万円) リサイクルショップ改修による 持続可能な住民互助活動</p>	<p>地域住民から寄付いただいた不用品を活動拠点内のリサイクルショップで販売し、その収益を生活支援事業や居場所事業の運営費などに活用しました。今後も地域住民から活動への理解と共感を得て、誰もが安心して暮らすことができる地域コミュニティづくりを目指します。</p>
<p>特定非営利活動法人兵庫空き家センター (30 万円) 坊勢島 空き家利活用促進で展開する まちづくりと活性化</p>	<p>家島諸島坊勢島で、空き家ツアーを開催しました。「空き家対策」と「観光」を結び付けたまちづくりの活性化モデルを地域持続の事業として発信し、次の世代に受け継ぎたい坊勢島をつくりました。今後は他の地域でも、同様の活動を展開していきます。</p>
<p>特定非営利活動法人フードバンクはりま (50 万円) 「食品ロス」と「空腹の人」双方を 減らすフードバンク事業</p>	<p>食品を無駄なく消費して、多くの人々が安心して暮らすことのできる社会の実現を目指しました。また、潜在的に支援したいと考えている方々が活動を始めるきっかけを作ることによって支援の輪を広げ、相互扶助の社会づくりに寄与しました。</p>

【新たな挑戦を通じて共生社会の実現を目指す事業】(8 団体 668.5 万円)

団体名/助成金額/プロジェクト名	プロジェクト内容
<p>一般社団法人 office ひと房の葡萄 (100 万円) 家族を頼れない若年女性のための 自立支援型シェアハウス</p>	<p>両親や家族の支援を得られず、行き場がなく、安定した仕事に就きにくい若年女性(18歳~23歳)を対象に自立支援型シェアハウス「ますかっとハウス」を立ち上げました。その人らしく生きていけるよう、一人一人と向き合い、寄り添いながら自立できるよう今後も伴走していきます。</p>
<p>特定非営利活動法人ころろ・からだ研究所 (47 万円) 親と子の WINWIN 離乳食プロジェクト</p>	<p>母親の負担を減らすためや発達に遅れのある子にも役立つ離乳食のレシピを作成、試作し、離乳食期の子を持つ家庭へ配布しました。アンケート結果から試作品の改善を行い、今後も普及に努めていきます。</p>
<p>子育て支援グループ てとて広場 (100 万円) ソーシャルサポート 「てとて広場はみんなの居場所」</p>	<p>西脇市で、生きづらさを抱えた子どもや若者とその家族を対象に、居場所、学習スペースの開放、パソコン教室などを開催しました。また、ピアサポーター、大学生、地域の方と共に体験活動やスポーツなど屋外での活動もしています。今後も全ての子どもたちが幸せに育つ環境づくりに力を注ぎます。</p>

<p><u>特定非営利活動法人</u> <u>丹波ひとまち支援機構</u></p> <p>(67 万円)</p> <p>課題提案・協働による市民活動（事業）を生み出すプラットフォーム創生事業 (仮称)</p>	<p>中山間地（丹波市域）において、市民活動が新たに生まれる環境づくりに挑戦します。多様な主体が知恵と資源を寄せ合い、解決策を立案する協創の地域円卓会議を開催します。立案された活動に対し、寄付を募り、支える資金循環の仕組みづくりにも取り組みます。</p> <p>※(事務局より)地域の実情により時期尚早と判断し 22 年度は準備で終了。助成金は、準備費用のみ使用し残額は返金済。</p>
<p><u>パレット</u></p> <p>(100 万円)</p> <p>でこぼこパークキャラバン</p>	<p>子どもたちが障がいに触れる・体験するイベント「でこぼこパーク」を開催しました。より多くの方が障がいについて知り、理解を深めるきっかけをつくることを目的として活動をしました。</p>
<p><u>認定 NPO 法人みやっこサポート</u></p> <p>(67 万円)</p> <p>「すべての人が暮らしやすいまちをつくる」プロジェクト</p>	<p>高齢者や地域の方を対象に金曜カフェを開催し、地域のネットワークを活用して直接的な生活サポート支援につなげました。今後も市民の助け合いの力で元気に暮らせるまちづくりを目指します。</p>
<p><u>特定非営利活動法人ムラのミライ</u></p> <p>(100 万円)</p> <p>子ども・子育て支援者向け「子どもとの対話」マイクロラーニング教材の開発</p>	<p>子どもが安心して話せるよう、大人のコミュニケーション技術を醸成する動画教材を開発しました。子ども・子育て支援者向けの講座とその後の聞き取りを通じて、子どもの自己肯定感に配慮した対話技術の習得と支援者同士の連携を目指していきます。</p>
<p><u>一般社団法人より処いっぷく</u> <u>いっぷくボランティアグループ</u></p> <p>(87.5 万円)</p> <p>みんなが力を出し合える ♡わくわく♡プロジェクト</p>	<p>軽度の認知症の高齢者など地域で暮らしにくくなりつつある方々にも農作業や喫茶の手伝いなど活躍できる場を提供しました。その過程に地域住民も加わり、今後お互いに支え合う地域づくりを目指していきます。</p>

(2) 助成団体を訪問し賛同企業へ報告

財団スタッフが 11 団体を訪問し、プロジェクトに込めた想いや進捗状況をヒアリングし、訪問記にまとめて賛同企業に伝えました。今後も賛同企業には助成団体の活動状況などを丁寧にお知らせし、継続的な支援を呼びかけます。

3. ひと育て、学びや交流の場の充実

(1) 第 4 回「高校生ともしびボランティア顕彰」を実施

第 3 次中期計画の柱の一つである、若者のボランティア人材の育成のための取り組みとして、「高校生ともしびボランティア顕彰」を実施しました。高校生がボランティア活動を通して、心豊かに成長し、次代の担い手となることを目的としています。

2022 年度も兵庫県教育委員会と兵庫県私立中学高等学校連合会のご後援を得て、神戸市校長会でのご案内や各高校へダイレクトメールを出すなどの広報活動を行った結果、県内 17 校から申請がありました。選考会を経て、14 校の顕彰を決定し、顕彰状と副賞として 3 万円を贈りました。選考委員からのメッセージを美装して送付したところ、今後の活動の励みになるとして高校のブログで紹介されました。また、顕彰校を訪問し、生徒たちにインタビューをしたり、活動現場の見学も実現しました。

3 月 27 日に、顕彰を受けた高校生の交流会を 12 校 65 名の先生・生徒、コープこうべの職員も参加して初めて対面で開催しました。

(2) コープこうべ地区開催の講座・研修を支援

コープこうべ第 2 地区本部が組合員向けに開催する、子育て世代や学生がシニアに教えるスマホ相談会に助成しました。

また、第 3 地区と財団との共催で、広報に役立つ「スマホ写真撮影講座」、コミュニケーション技術を学ぶ「子どもの話を聴く技術 体験会」を開催しました。いずれも、学んでほしい対象者に向けて地区通信などで募集したため、受講者からは、すぐに実践したいとの声が多く寄せられました。今後もひき続き、状況に応じて、必要とされる講座・研修を支援していきます。

(3) 分野別交流会を開催

「子どもを笑顔にすることを考える交流会」と題して、子ども育成に取り組む団体の交流会を開催しました。交流会の内容については、大学生を含む助成団体の代表やコープこうべの地区マネジャーなどが中心となって話し合いを重ね、決定しました。当日は、情報共有や大学生が考えた子どもを笑顔にするアイデアの発表などに始まり、活発な意見交換へと発展しました。今後も定期的に小規模での交流会を開催し、団体どうしの情報交換や繋がるきっかけづくりの場を提供していきます。

II. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに拡げます

1. 当財団の活動を積極的に広報し、共感を広げる

(1) ともしび通信の発行

年 4 回発行のともしび通信では、団体の情報や財団の動きなど丁寧に広報しました。特に今年度は、助成団体を訪問し、活動の様子を紹介することに注力しました。また、F S C 認証紙使用をきっかけにカラー印刷としたことで、助成団体の活動内容がよりわかりやすくなったとの評価を得ています。

(2) コープこうべと連携した広報

ラジオ関西の番組の中でコープこうべの様々な取り組みを紹介する「コープス・コープ」で月 1 回、5 分程度の枠で、スタッフが出演し、財団について紹介しました。各月の内容は、ボランティア活動助成、やさしさにありがとうひょうごプロジェクト、高校生ボランティア顕彰の案内や財団が助成している団体も 3 団体出演し、活動内容を紹介いただきました。出演団体は、ともしび通信に記載して募りました。出演団

体からは、自団体の広報になるとともに、活動そのものを振り返る良いきっかけになったと好評でした。

2. コープこうべの関連部署や組合員組織と連携し、広報活動を推進

(1) コープ委員会学習会

「ともしび財団ってどんなことしているの」をテーマに財団の成り立ちや由来、ボランティア活動の循環などをお話し、助成団体「伊丹ボランティア無線クラブ」の代表を招いて災害発生時、無線が役立つことを学んでいただきました。学習会をきっかけにして、つり銭チャリティーや集中募金、きしゃぼんへの寄付への呼びかけるとともに財団への理解を深める機会となりました。

(2) コープこうべ開催の「地域つながるミーティング」に参加

コープこうべが開催する、「地域つながるミーティング※」で、財団についての紹介とボランティア活動助成、高校生ともしびボランティア顕彰の案内をしました。その中から、新たな団体が助成説明会に参加され、申請いただきました。今後も、財団への理解を深める機会としていきます。

※地域つながるミーティングとは

2022年2月からスタート、組合員と地域の多様な活動者との出会いと共有を目的に、コープサークルや地域コープ委員会のメンバーをはじめ、地域の活動団体が参加、今後も夏と冬の年2回以上開催する予定。

Ⅲ. 財団の基盤の安定をめざし、資金調達と事務局機能の強化を図ります

1. 資金調達の強化

(1) 2022年度賛助会費・寄付・募金について

(単位:円)

		2022年度実績	2022年度目標	2021年度実績	2020年度実績
賛助会費	個人	690,000	600,000	644,000	672,000
	法人	1,250,000	1,300,000	1,320,000	1,280,000
賛助会費合計		1,940,000	1,900,000	1,964,000	1,952,000
寄付	個人	996,366	700,000	716,870	787,274
	お香典にかえて	160,000	250,000	350,000	540,000
	法人(やさしさ)	2,300,000	2,400,000	2,300,000	2,500,000
	法人(上記以外)	100,000			
	まいくる	1,069,680	1,050,000	1,042,273	1,013,568
	つり銭チャリティー	467,293	450,000	503,160	447,690
寄付合計		5,093,339	4,850,000	4,912,303	5,288,532
募金	集中募金	6,345,228	7,500,000	7,584,251	4,488,313
	めーむポイント	2,299,900	3,500,000	3,786,300	2,824,075
	きしゃぼん	677,197	850,000	778,979	1,319,985
	切手・はがき	83,129	150,000	131,619	387,531
	その他	127,547	0	54,836	3,840
募金合計		9,533,001	12,000,000	12,335,985	9,023,744
総合計		16,566,340	18,750,000	19,212,288	16,264,276

※2022年度実績の法人(上記以外)100,000円は「大和証券グループ 120周年記念 こどもの未来プロジェクト」

として大和証券神戸支店様から寄付をいただきました

賛助会費や個人からの寄付は目標金額に達しましたが、香典返しに替えての寄付が2021年度より減りました。募金金額についてはコープこうべが組合員向けに行う年2回の集中募金やめーむポイントが目標を下回りました。

(2) 古本募金「きしゃぼん」や書き損じハガキ回収などの取り組み

2016年の7月から新たに取り組み始めた「古本募金 きしゃぼん」は約6年間でのべ249,000点を超える古本が寄せられ、約487万円の募金が実現しました。2022年度は、約68万円の募金となりました。コープの店舗を中心として回収ボックスを21カ所に設置しています。また、コープ委員を対象に書き損じハガキや未使用切手の回収を呼びかけ、約8万円の募金金額となりました。

(3) 夕食サポート事業からの寄付

高齢者世帯を中心に毎日夕食のお弁当を届けるコープこうべの夕食サポート事業「まいくる」では、兵庫県内での利用1食あたり0.5円を当財団に寄付いただいています。毎年緩やかに増加しており、2022年度は1,069,680円(前年比102.6%)になりました。

(4) 基本財産運用

2022年3月に外債シルフリミテッドシリーズ1219(年利2%)1億円が満期償還され、その後、9月に兵庫県第44回20年公募公債(グリーンボンド)を購入しました。購入につきましては、債券検討会を開催し、各証券会社からのご提案について様々なご意見をいただきました。結果、より安全かつ確実性が高く、財団にふさわしいSDGs債がよいとの結論に達し、購入に至りました。

2. 財団の基盤、人材育成の強化

(1) 財団スタッフの学びを促進

多文化共生・多世代交流に取り組む団体を重点的に支援していきたい分野と位置付け、セミナーへの参加による学びや実際に外国にルーツを持つ方々の支援を行っている団体を訪問し、情報収集を行いました。また、外部団体の主催する子ども食堂のフォーラムに参加し、子ども食堂の現状認識と今後、必要とされる支援について学びました。

また、助成団体にとって活動の現場で役立つ講座や研修を探し、実際にスタッフが参加し学んだ上で効果があると思われる講座を2月に2回、実施しました。